多古町地域経済活性化拠点整備に係る議会との意見交換会及び先進地視察を行いました

—10月7日(火)　第2回意見交換会—

今回の意見交換会では、予備設計業務委託の進捗状況を説明し、今後の予定と先進事例視察に関する意見交換を行いました。拠点に関して、「財政的課題に配慮し、過年度検討した1敷地1棟建てにこだわらず分棟も視野にフェーズを分け、中長期を見据え整備すること」や、「町民のニーズを把握し、優先順位の比較検討を行っていくこと」を確認しました。

第2回意見交換会の様子

—10月31日(金)　先進地視察—

●**ブランチ守谷**(茨城県守谷市)

自治体の所有地を民間企業が活用することで、新たな人の流れと賑わいを創出し、地域活性化につなげることを目的とした事業を実施しており、商業エリアは比較的安価な軽量鉄骨造の建物を機能別に複数設置しています。

ブランチ守谷を視察

●**さかい町特産品研究所 S-Lab 他**(茨城県境町)

農業の6次産業化のため、地域産業支援センターや地場産品研究開発施設、ブランド研究施設などを整備し、製造された商品をふるさと納税返礼品として活用したり、道の駅で販売したりするなど先進的な取り組みを実施しています。

境町の取り組みに関して説明を受けました

さかい町特産品研究所 S-Lab 視察

引き続き、多古町の経済活性化に向けて、事業を進めていきます。

お問合せ●産業経済課経済振興係　☎76-5404

多古町喜多地区第1期開発区域まちづくり協議会が設立されました

多古町都市計画マスタープランに位置付けている「産業拠点(喜多地区)」において、第1期開発区域の関係権利者(地権者・借地権者)を中心とした「多古町喜多地区第1期開発区域まちづくり協議会」が設立されました。

協議会は、多古IC周辺の産業拠点の創出に向け、望ましい土地利用や、良好なまちづくりの研究などを行い、関係権利者との合意形成を図ることを目的としています。会長に就任した土屋さんは、「会長として、喜多地区の発展のために尽くしていきたい」と述べました。

今後、協議会は町と共に、事業化に向けて「事業化検討パートナー(民間事業者)」の公募・選定を行っていきます。

抱負を述べる土屋会長(左端)

お問合せ●空港まちづくり課空港地域振興室企業誘致係
☎76-5408

うめすけの多古町 探訪「文字の力」

インターチェンジ建設予定地の喜多は、複数の村が合併した時に好字令(7月号参照)を踏襲し、どこかより見ての北に「喜びが多い」を充てたものと推測しています。今月は、そんな文字について。

村名は縛りがなかったものの、国名は必ず二文字と決まっていました。例えば、粟国(徳島県)を阿波国とし、そこからの移民が上総国に阿波郡を創り、その後同音の安房に替えたと伝わります。また、木を紀伊にした国もあれば、泉は和を添え和泉にしても読みは「いずみ」のままでした。元号『和銅』の和に「上質な」の含みもあったように、文字の力を恃む気持ちが強かったのでしょう。

次に三文字の場合はどうしたか、総国(千葉県)と同じく上下に分かれていた毛野国で検証します。上毛野(群馬県)、下毛野(栃木県)と称していたのを、読みは毛を残し字は野を残して、上野と下野に改めました。二県を結ぶ鉄道は、消えた字を復活させた両毛線ですね。

さて、そろそろ忠臣蔵という言葉が、テレビや雑誌で目立ってきます。江戸時代のパワハラ疑惑を基にした物語ですが、悪役の吉良上野介(イケメンでインテリ。名君説も有り)は、上野国の介(副知事)を示す役職名です。吉良邸に討ち入って主君の仇を取った大石内蔵助も、内蔵寮(宝物庫係)副長の意で個人名じゃありません。スケは他の字(輔・亮・祐・佐)も次官を表します。もっとも、実際の業務とは関係ない形式的な呼称でした。読み方もスケとは限らず、多古藩には松平大蔵少輔という殿様がいました。

ちなみに、再来年の大河ドラマで松坂桃李さんが演じる主人公、小栗忠順が名乗る際に使っていた役職名も上野介です。喜多の隣の五反田は小栗家の領地でしたから、番組最後の紀行コーナーに推薦してみてはいかがでしょうか。

文芸コーナー

※順不動　※多古町俳句会では会員を募集しています。

俳句

老いの指にトンボとまりて胸おどる　戸村しげ子
大空の雲の切れ間に秋気配　野老恵子
虫の音のやがて耳鳴り寝際かな　木内慶子
虚ろなる帰燕の空のただ青し　鈴木裕
指先に酢橘の棘の痛みかな　萩原晶子
泪夫藍の赤き蕊摘む白い指　髙橋宮乃
籾摺機止んで母屋の明かりつく　平山眞理子
小鳥より先に食べたし庭の柿　内藤誠

短歌

※短歌の作成者名は雅号を使用しており実名と異なる場合があります。

鶏頭の種蒔 移植 定植と毎年続け卒寿となりぬ　星野みつ
もう秋と思う青き空なれど残暑きびしく草も引けずに　高橋宏子
いつの間に稲刈り終へて月の夜をフロントガラスに開ける耕地　秋山裕子
独り居の年金暮らしの贅かとも店頭に光る新秋刀魚買う　鈴木沙和子
豊漁の今朝のニュースに喜べど店頭の秋刀魚は今なほ高し　越川節子
「神田川」真似てタオルをマフラーに朝早く出る寒鮒釣りに　渡部健
画学生は徴兵覚悟し描きしか明るき色の絵画少なし(無言館にて)　野平敏江